本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

温度計測機能/日の出・日の入り時刻表示 997

取扱説明書

997

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。
なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。
この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

ご使用上の注意

防水性

●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR	30BAR
洗顔、雨	○	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○	○
スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○	○

※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。
●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的（２～３年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

バンド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。
●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単に拭き取ることができます。

温度

●直射日光が長く当たったり、高温になるところに放置しないでください。
また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。
●低温下で使用し、ボタン部分が凍結した場合、ボタン操作ができなくなることがあります。常温に戻れば、ボタンは正常に作動します。
●低温下でアラームを使用すると表示が見にくくなったり、消えたりすることがあります。常温に戻れば正常に作動します。

ショック

●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると故障の原因になります。

磁気

●磁気の影響はありません。

薬品類

●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

保管

●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

お手入れについて

お手入れのしかた

●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

お手入れを怠ると

●「サビ」
●ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
●表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。
●「かぶれ」
●皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
●特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
●万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

蛍光商品のお取り扱いについて

●蛍光色商品のケース／バンドを使用しているものは、以下の点にご注意ください。
●長時間、直射日光に当てますと、色あせする場合があります。
●長時間、濡れたままにしておくと色が落ちるおそれがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
●長時間、他の商品と密着させたり、濡れたまま他の商品と一緒にしておくと、他の商品に色が移行することがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、密着保存を避けてください。
●プリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。

電池交換について

最初の電池

●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消耗

●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見えにくくなったり」「消えたり」します。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換

●電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
●電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）

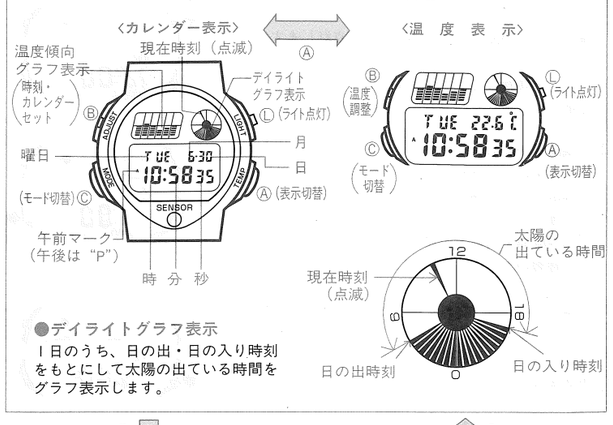
■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

操作のしくみと表示の見方

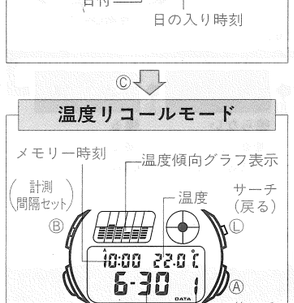
©ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。
（押すごとに確認音が鳴ります。）
※各モードでその機能を使用した後、©ボタンを押すと直接時刻モードに戻ります。
※表示内容や使い方については各機能の項目をご覧ください。

時刻モード

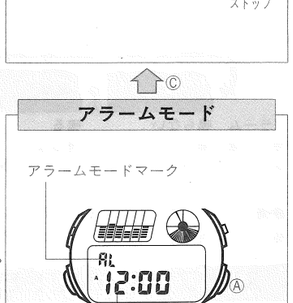


●デイライトグラフ表示
１日のうち、日の出・日の入り時刻をもとにして太陽の出ている時間をグラフ表示します。

日の出・日の入りモード



ストップウオッチモード



温度リコールモード

アラームモード

秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

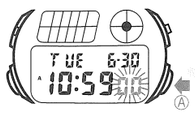
月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時刻はいつも正確です。

1 時刻モード（カレンダー表示）のときに、Ⓑボタンを1回押して時刻セット状態にします。



2 時報に合わせて、Ⓐボタンを押すと「秒」が点滅しながら00秒からスタートします。

秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分くりあがって、00秒からスタートします。



※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

3 秒合わせが終わりましたら、Ⓑボタンを続けて２回押すと時刻モードに戻ります。



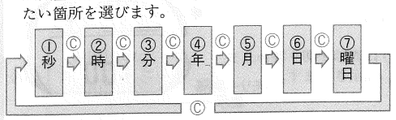
（使用場所のセット）

時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

1 時刻モード（カレンダー表示）でⒷボタンを1回押して時刻セット状態にします。

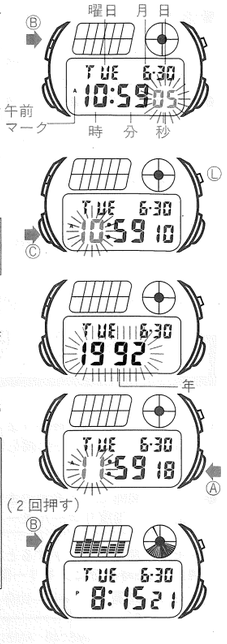
2 ©ボタンを押します。
時刻セット状態のとき、©ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。
点滅箇所がセット可能ですので、©ボタンでセットしたい箇所を選びます。



※12／24時間制表示切り替え
秒・時・分のいずれかのセットのときにⓁボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示とが切り替わります。
※年は西暦で1990年～2029年までセットできます。

3 点滅箇所がⒶボタンを押すごとに1つずつ進み、押し続けると早送りができます。

©ボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓐボタンで表示をセットする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
注）「時」のセットのとき午前(A)/午後(P)、24時間制(24) にご注意ください。
注）サマータイム（DST）に切り替えるときは、時差のセットも合わせてセットしてください。



4 セットが終わったら(どの箇所が点滅していても)、Ⓑボタンを続けて2回押すと点滅が止まり、セット完了です。
※カレンダーを変更した後、Ⓑボタンを2回押して時刻モードに戻すと、日の出・日の入り時刻を計算する計算表示となります。

●時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、時刻モード（カレンダー表示）に戻ります。
●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

日の出・日の入り時刻の見方

日の出・日の入りモードで、任意の日の日の出・日の入り時刻を見ることができます。また、日の出・日の入り時刻をもとにして太陽の出ている時間のグラフ表示（デイライトグラフ表示）も行ないます。

〈ご注意〉
本機の日の出・日の入り時刻は使用場所の緯度・経度・時差をセットしませんと正しく表示されません。ご使用時には、「使用場所のセット」をよくお読みになり、各セットを行なってください。なお本機は、工場出荷時に「東京（GMT＋9、140° E、36° N）」のデータがセットされており、また、本取扱説明書の例題もすべて使用場所を「東京」としています。ご使用場所によっては表示内容が異なりますので、ご理解の上操作を行なってください。

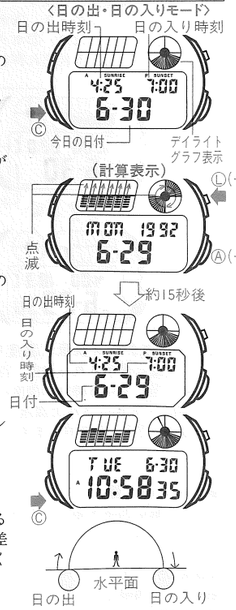
■日の出・日の入り時刻の見方

1 時刻モードのときに©ボタンを押すと、日の出・日の入りモードになります。
➡今日（カレンダーで表示されている日）の日の出・日の入り時刻を表示します。

2 日の出・日の入りモードのとき、Ⓐボタンを押すごとに日付が１日ずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに１日ずつ戻ります。
（日付順送り表示機能）
※押し続けると早送りできます。

➡日付を指定してⒶまたはⓁボタンから手を離すと、約15秒間の計算表示の後、その日付の日の出・日の入り時刻を表示します。

3 日の出・日の入り時刻を見終わりましたら、©ボタンを押すと、時刻モードに戻ります。



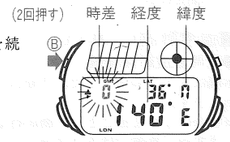
〈参考〉
●日の出・日の入りとは
本機で言う「日の出・日の入り」とは海抜0mにおける水平面での時刻で、海抜高度や地形により多少の誤差ができます。一般に高度が高くなるほど日の出は早くなり、日の入りは遅くなります。
●日の出・日の入り時刻の計算
日の出・日の入り時刻は日付による均時差（実際の太陽と平均的な太陽とのずれ）と視赤緯（季節によりかわる太陽高度）、場所によるGMTとの時差と緯度・経度により決まります。本機では、これらのデータを簡略化した推算式により概算していますので、地域によっては多少の誤差ができることがあります。
●日の出・日の入り時刻の予測誤差：低ー中緯度・約5分以内　高緯度・約5～10分以内

■使用場所のセット（緯度・経度・時差のセット）

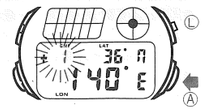
本機では日の出・日の入り時刻を計算するために緯度と経度および世界標準時を基準とした時差をあらかじめセットする方式を採用しています。
セットは一度行なえば再びする必要はありませんが、旅行や引越しなどで大きく移動した場合はその場所の緯度・経度（海外のときは時差）をセットしなおしてください。
※現在お住いの場所の緯度・経度につきましては、巻末にあります「日本の緯度・経度」またはお手もとの地図を参照してください。

●緯度・経度・時差のセット

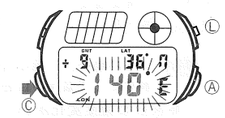
1 時刻モード（カレンダー表示）のときにⒷボタンを続けて２回押すと時差のセットとなります。

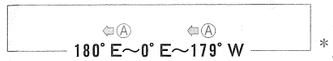


2 このときⒶボタンを押すごとに時差が１つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに時差が１つずつ戻ります。
※Ⓐ・Ⓛボタンを押し続けると早送りができます。
Ⓐあるいは Ⓛボタンを押してお住いの時差を表示させます。日本の時差は＋９時間ですので、日本で合わせるときは“＋９”とします。
※その他の国で時差を合わせるときは「時差と緯度・経度」の表を参照してください。
※サマータイム（DST：Daylight Saving Time）を採用している場合は、通常の時差に＋1時間した時差をセットしてください。



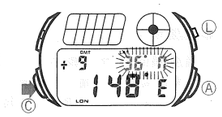
3 時差のセットが終わりましたら、©ボタンを押すと経度のセットとなります。
経度はⓁボタンまたはⒶボタンを押すごとに以下の順に表示しますので、経度を表示させます。

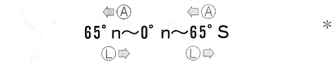




※Ⓐ・Ⓛボタンとも押し続けると早送りができます。
※緯度・経度のセットは１度（1°）単位ですので、その間（分単位）は１度単位に丸めてセットしてください。
例：50° 40′ は51° とセットする。
※日本国内の緯度・経度については、「日本の緯度・経度」を参照してください。

4 経度のセットが終わりましたら、©ボタンを押すと緯度のセットとなります。
緯度はⓁボタンまたはⒶボタンを押すごとに以下の順に表示しますので、緯度を表示させます。





5 時差・経度・緯度のセットが終わりましたらⒷボタンを押すと点滅が止まり、時刻モードに戻ります。
※時差・経度・緯度を変更した後、Ⓑボタンを押して時刻モードに戻すと、内部計算が行なわれ、計算表示となります。



●セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。

カシオ計算機株式会社
RE0725520IA

温度計測機能の使い方

温度計測機能は、内蔵の温度センサーが時計本体の温度を検出し、デジタル表示する機能です。また、あらかじめ設定された時間ごとに温度を計測し、メモリーする（最大30本）こともできます。

工場出荷時に基準温度がセットしてあり、そのままでお使いになれますので、本機の温度表示が大きくずれている場合以外は絶対に温度調整を行なわないでください。

■温度計測について

〈時刻モード（温度表示）〉

現在温度



●常時温度計測機能

本機はすべてのモードで、2分おきに温度を自動的に計測します。

※場合により2分ごとに計測が行なわれないことがありますが、故障ではありません。

現在温度は、時刻モード（温度表示）で見ることができます。

●即時温度計測機能　☞最新の温度を計測することができます。

時刻モードのとき、カレンダー表示からⒶボタンを押して温度表示に切り替えると、そのときの温度を計測し、表示します。

●温度メモリー機能

本機は、あらかじめ設定された時間ごとに温度を計測し、メモリーする（最大30本）ことができます。また、メモリーされた温度は、温度リコールモードで見ることができます。(「温度メモリーのしかた」参照)

〈ご注意〉

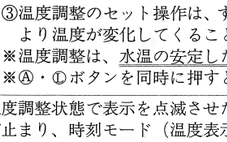
温度センサーは時計に内蔵されているため、本機の計測する温度は時計自体の温度となり、急激な温度変化があった場合など、時計自体が実際の温度と同じになるには約30分程度かかります。また、体温（腕につけているとき）、直射日光、水滴等の影響を受けますので、正確な温度を計測する場合は、時計を腕からはずし、風通しのよい日陰で、水滴をよく拭き取ってから計測を行なってください。

参考　以下の場合、正確な温度を表示しないことがあります。それぞれのグラフを参考にして温度の目安にしてください。

●急激な温度変化があった場合

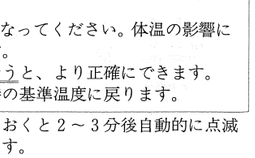
時計自体の温度が実際の温度と同じになり、正確な温度を表示するまで約30分程度かかります。

急激な温度上昇（T_0からT_1）に対する温度計表示変化



●腕につけたままで温度（気温）を計測する場合

本機を腕につけているときは、体温などの影響により正確な温度を計測できないことがあります。



腕につけているときに表示される温度

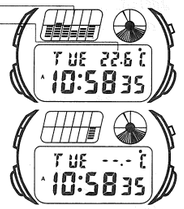
●温度表示の見方　☞カレンダー表示のとき、Ⓐボタンを押して温度表示にします。

〈時刻モード（温度表示）〉

温度傾向グラフ表示

現在温度（右端）を基準として、毎正時の温度データ（過去5時間以内）と比較し、その差(一目盛＝2℃)を表示します。

現在温度

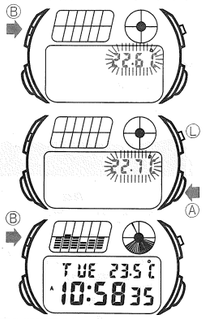


●オーバー表示

温度が表示範囲（−20.0℃～60.0℃）を超えた場合、"-.-℃"と表示されます。温度が表示範囲内に戻ると、通常に表示します。

■温度調整のしかた

本機の温度計測機能は、工場出荷時に調整してありますので、本来温度の調整を行なう必要はありません。信頼ある温度計があって、その温度に対して本機の表示が大きくずれている場合にのみ以下の操作に従い温度を調整してください。この温度調整を誤って使用しますと、温度計測が正しく行なえなくなりますのでご注意ください。



1 時刻モード（温度表示）のとき、Ⓑボタンを押すと温度が点滅して調整状態となります。

2 Ⓐボタンを押すごとに0.1℃ずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに0.1℃ずつ戻りますので、ⒶまたはⓁボタンで温度を合わせます。
※それぞれ押し続けると早送りします。
※Ⓐ・Ⓛボタンを同時に押すと、工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。
※調整できる範囲は、表示している温度の−9.9℃から+9.9℃までとなります。

3 Ⓑボタンを押すと時刻モード（温度表示）に戻ります。

●温度調整するときのご注意

①信頼できる正確な温度計と比較して行なってください。
②温度調整は、本機を腕からはずし、30分以上放置して温度を安定させてから行なってください。
③温度調整のセット操作は、すみやかに行なってください。体温の影響により温度が変化してくることがあります。
※温度調整は、水温の安定した水中で行なうと、より正確にできます。
※Ⓐ・Ⓛボタンを同時に押すと工場出荷時の基準温度に戻ります。

●温度調整状態で表示を点滅させたままにしておくと2～3分後自動的に点滅が止まり、時刻モード（温度表示）に戻ります。

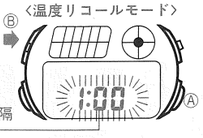
■温度メモリーのしかた

本機は、センサーによって計測された温度を最大30本までメモリーすることができます。また、温度をメモリーする間隔（10分、1時間、3時間、24時間の4種類）を選ぶこともでき、温度変化の傾向を知ることができます。

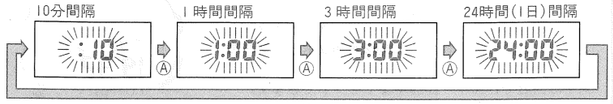
●メモリー間隔を選ぶ　☞時刻モードのとき、Ⓒボタンを2回押して温度リコールモードにします。

1 温度リコールモードのとき、Ⓑボタンを押すと、メモリー間隔表示が点滅します。
※工場出荷時には"1:00（1時間）"がセットしてあります。

〈温度リコールモード〉



2 Ⓐボタンを押すごとに次のように表示が切り替わりますので、メモリー間隔を選び、表示させます。



3 メモリー間隔を選び終わりましたら、Ⓑボタンを押して温度リコールモードに戻します。



●メモリー間隔セット表示のまま、2～3分すると点滅が止まり、温度リコールモードに戻ります。

メモリー間隔をセットすると、以後、それぞれ次のようにメモリーを行ないます。
例）午前8時48分にメモリー間隔セットを行なう。



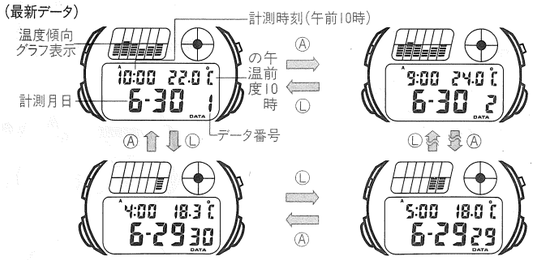
※メモリー間隔が3時間（あるいは24時間）のときは、セットを行なった時刻の正時（AM8:48にセットを行なった場合はAM8:00）から数えて3時間（あるいは24時間）後からメモリーを行ないます。

●メモリーした温度を見る　☞時刻モードのとき、Ⓒボタンを2回押して温度リコールモードにします。

メモリーした温度は、温度リコールモードで見ることができます。

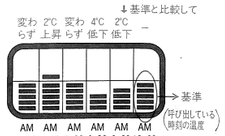
温度リコールモードのとき、Ⓐボタンを押すごとに最新データ（データ番号1）から1つずつ過去にさかのぼり、Ⓓボタンを押すごとに1つずつ逆の方向に進みます。

※Ⓐ・Ⓓボタンは、それぞれ押し続けると早送りします。



●温度傾向グラフ表示（温度リコールモード）

グラフ右端に表示される温度（温度リコールモードのときは呼び出している時刻の温度）を基準として、それより以前にメモリーされた温度データと比較し、その差（一目盛＝2℃）を表示します。

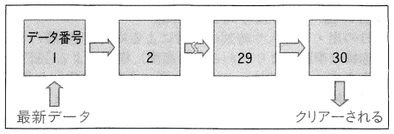


●データの入替え

メモリー数が30本を超えると、データ番号"1"に最新データがメモリーされます。そのため、それまでメモリーされていたデータが1つずつずれて、一番古いデータ（データ番号"30"のもの）が消されます。

※温度データをクリアーすることはできません。

例 メモリー間隔を"1:00"にしているときは、常に過去29時間分のデータがメモリーされているということになります。



アラーム・時報の使い方…操作のしくみにしたがって©ボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子ブザーで知らせてくれます。

また、毎正時（00分のとき）を"ピッピッ"と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。



●アラームのセットのしかた

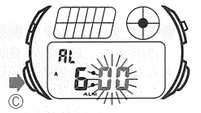
1 アラームモードでⒷボタンを押すと「時」が点滅します。
※アラームONマーク（ALM）が点灯します。
このときⒸボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動します。点滅箇所がセット可能ですのでⒸボタンを押してセットしたい箇所を点滅させます。



2 点滅箇所の表示数字がⒶボタンを押すごとに1つずつ進みますので、合わせたい「時」を表示させます。
※Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前／午後にご注意ください。
※基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。



3 「時」のセットが終わりましたら、Ⓒボタンを押すと「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様な操作で合わせたい「分」を表示させます。



4 セットが終わりましたら、Ⓑボタンを押すと点滅が止まりセット完了です。

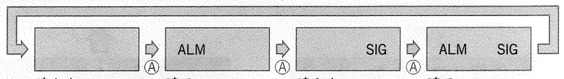


※アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

●アラーム・時報を鳴らすには

アラームモードのとき、Ⓐボタンを押すごとにアラームONマーク（ALM）、時報ONマーク（SIG）が以下の順で点灯・不点灯をくりかえします。各マークとも点灯しているときがONで、アラーム・時報が鳴ります。





アラーム	鳴らない	鳴る	鳴らない	鳴る
時　報	鳴らない	鳴らない	鳴る	鳴る

※アラーム・時報を鳴らさないときは、各マークが点灯していない状態にします。

●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるには、ⒹⒶⒷⒸボタンのいずれかを押します。

ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがって©ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

Ⓐボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。計測中Ⓓボタンを押すと表示は止まりますが内部では計測を続けるスプリット計測となります。

Ⓐ・Ⓓボタンともそれぞれ押すと操作確認音が鳴ります。



●通常の計測

Ⓐ → Ⓐ → Ⓛ
スタート　ストップ　リセット

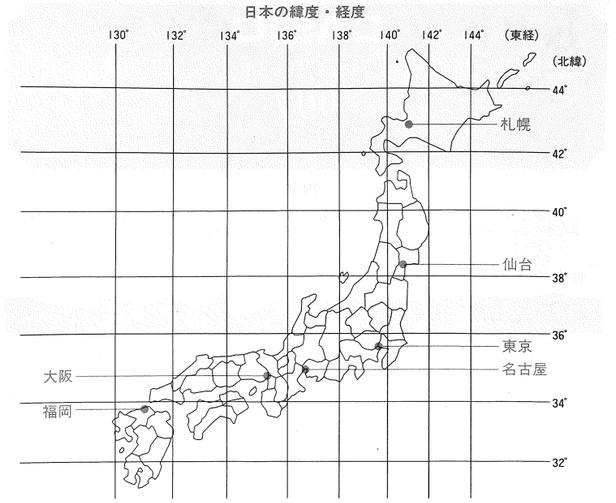
※積算計測…ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート（Ⓐボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓐ → Ⓛ → Ⓛ → Ⓐ → Ⓛ
スタート　スプリット計測　スプリット解除　ストップ　リセット

●1着・2着のタイム同時計測

Ⓐ → Ⓛ → Ⓐ → Ⓛ → Ⓛ
スタート　1着がゴール　2着がゴール　2着タイム表示　リセット
（1着タイム表示）



時差と緯度・経度

都市名	標準時差	DST	経度	緯度
パゴパゴ	−11	−10	171° W	14° S
ホノルル	−10	−9	158° W	21° N
バビート	−10	−9	150° W	18° S
アンカレッジ	−9	−8	150° W	61° N
ロサンゼルス	−8	−7	118° W	34° N
サンフランシスコ	−8	−7	122° W	38° N
ラスベガス	−8	−7	115° W	36° N
バンクーバー	−8	−7	123° W	49° N
シアトル	−8	−7	122° W	48° N
デンバー	−7	−6	105° W	40° N
エルパソ	−7	−6	106° W	32° N
エドモントン	−7	−6	114° W	54° N
シカゴ	−6	−5	88° W	42° N
ヒューストン	−6	−5	95° W	30° N
ダラス	−6	−5	97° W	33° N
ニューオリンズ	−6	−5	90° W	30° N
メキシコシティ	−6	−5	99° W	19° N
ニューヨーク	−5	−4	74° W	41° N
モントリオール	−5	−4	74° W	45° N
デトロイト	−5	−4	83° W	42° N
マイアミ	−5	−4	80° W	26° N
ボストン	−5	−4	71° W	42° N
バナマシティ	−5	−4	80° W	9° N
リマ	−5	−4	77° W	12° S
カラカス	−4	−3	67° W	10° N
サンチアゴ	−4	−3	71° W	33° S
リオデジャネイロ	−3	−2	43° W	23° S
サンパウロ	−3	−2	47° W	24° S
ブラジリア	−3	−2	48° W	16° S
ブエノスアイレス	−3	−2	58° W	35° S
アゾレス諸島	−1	−0	25° W	38° N
ロンドン	±0	+1	0° E	51° N
ダブリン	±0	+1	6° W	53° N
リスボン	±0	+1	9° W	39° N
カサブランカ	±0	+1	8° W	34° N
ダカール	±0	+1	17° W	15° N
パリ	+1	+2	2° E	49° N
ミラノ	+1	+2	9° E	45° N
ローマ	+1	+2	12° E	42° N
マドリード	+1	+2	4° W	40° N
アムステルダム	+1	+2	5° E	52° N
ハンブルグ	+1	+2	10° E	54° N
ストックホルム	+1	+2	18° E	59° N
フランクフルト	+1	+2	9° E	50° N
ウィーン	+1	+2	16° E	48° N
カイロ	+2	+3	31° E	30° N
アテネ	+2	+3	24° E	38° N
ヘルシンキ	+2	+3	25° E	60° N
イスタンブール	+2	+3	29° E	41° N
ベイルート	+2	+3	35° E	34° N
ダマスカス	+2	+3	36° E	33° N
クウェート	+3	+4	48° E	29° N
ジェッダ	+3	+4	39° E	21° N
アディスアベバ	+3	+4	38° E	9° N
ナイロビ	+3	+4	37° E	1° S
バーレーン	+3	+4	50° E	26° N
ドバイ	+4	+5	55° E	25° N
アブダビ	+4	+5	54° E	24° N
カラチ	+5	+6	67° E	25° N
ダッカ	+6	+7	90° E	24° N
バンコク	+7	+8	100° E	14° N
ジャカルタ	+7	+8	107° E	6° S
ブンバンベン	+7	+8	105° E	12° N
ハノイ	+7	+8	106° E	21° N
香港	+8	+9	114° E	22° N
シンガポール	+8	+9	104° E	1° N
クアラルンプール	+8	+9	102° E	3° N
上海	+8	+9	121° E	31° N
台北	+8	+9	122° E	25° N
マニラ	+8	+9	121° E	15° N
パース	+8	+9	116° E	32° S
東京	+9	+10	140° E	36° N
ソウル	+9	+10	127° E	38° N
平壌	+9	+10	126° E	39° N
シドニー	+10	+11	151° E	34° S
メルボルン	+10	+11	145° E	38° S
グアム	+10	+11	145° E	13° N
ヌメア	+11	+12	166° E	22° S
ポートヴィラ	+11	+12	168° E	18° S
ウェリントン	+12	+13	175° E	41° S
クライストチャーチ	+12	+13	173° E	43° S
アムウルアイランド	+12	+13	166° E	1° S

※この表は1992年3月現在作成のものです。
※時差はグリニッジ標準時（協定世界時：UTC）を基準としたものです。
※DSTとはサマータイムのことで、Daylight Saving Timeの略です。また、DSTの採用時期は各都市により異なりますし、採用していない都市もありますのでご確認ください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768 Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
動作温度範囲：−20.0℃～60.0℃
基本機能：時刻表示　時・分・秒・午前(A)／午後(P)／24時間制表示
カレンダー表示　月・日・曜日　フルオートカレンダー(1990～2029年)
日の出時刻・日の入り時刻表示、デイライトグラフ表示
日の出・日の入り機能：日の出時刻・日の入り時刻表示、デイライトグラフ表示、
日付順送り表示機能つき
温度計測機能：計測範囲＝−20.0℃～60.0℃　表示単位＝0.1℃
常時温度計測（2分毎）、温度メモリー機能（最大30本）、
温度メモリー間隔セット（4種類）、温度メモリーリコール機能
・温度調整機能（±9.9℃）
温度計測精度：±3℃以内（−20℃～60℃のとき）
ただし、10℃～40℃のときは±2℃以内
アラーム機能：時刻アラーム　セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間
時報　毎正時に2回電子ブザーで報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒　計測範囲＝23時間59分59秒99（24時間計）
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能（±30秒アジャスト）、
アラームセット機能
その他：自動復帰機能、12/24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　半導体温度センサー　ワンチップCMOS-LSI
使用電池：CR-2016（電池別途販売）
※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。
電池寿命：約3年
（1日あたり電子ブザーを20秒間、ライト点灯を1秒間使用した場合）